



加古川市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：264,016人 ■市域面積：138km²
■担当課：加古川市教育委員会（令和2年10月現在）



市域の中央を県下最大の河川である加古川が貫流し、豊かな自然と歴史を持つ加古川市では、人と地域のつながりを意識した市民と行政の協働によるまちづくりを進めている。その中で、地域の歴史文化を確認しその保存・活用に取り組むことで、歴史文化遺産を核とした地域の魅力の増進や地域の活性化につなげるため、「加古川市歴史文化基本構想」を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

加古川・用水路・ため池の風景、鶴林寺の宝、古墳
と石棺石仏、山陽道の駅と宿、多様な伝説と祭礼

課題

- ・歴史文化資源の把握と価値の顕在化
- ・指定・登録文化財以外の歴史文化資源の保存と活用
- ・人材の育成と発掘 等

保存活用方針

- ・様々な主体が連携して取り組むための基盤を作る
- ・歴史文化資源の魅力を定住促進、観光振興、産業振興に繋げる 等

保存活用のための取り組み

保存活用計画の策定推進

文化財保存活用地域計画の作成を進めるとともに、関係する各主体の協働のもと、地域の魅力の向上や活性化につなげるための具体的な取組を定める保存活用計画の策定を推進する。



防災体制の強化

既存の地域防災計画・水防計画を踏まえた上で、歴史文化遺産について「災害予防」、「災害応急対応」、「災害復旧・復興」の3つの視点から防災体制の強化を図る。



歴史文化を活かすまちづくりに向けた体制整備

地域の歴史文化の調査・把握を継続し、それらの情報発信・公開に努める。イベントやボランティアガイド育成などの事業計画を進め、事業者や有識者との連携を図り、市民を中心とした推進体制を整える。



関連文化財群の保存と活用

指定・登録文化財だけでなく、各関連文化財群としてのまとまりを活かした保存・活用を効果的に進めていくため、テーマごとに取組の方向性を整理していく。





関連文化財群



加古川市では、様々な歴史文化が関係性を持ちながら広く点在している。そのため、単体では市民に伝わりにくい歴史文化遺産のつながりを重視して、6つのテーマを整理した。その上で基本ストーリーを設定し、市内で一体的に保存・活用すべき関連文化財群の分布とまとまりを有する区域を明らかにした。

ストーリー

- ① 加古の流れ～川と平地と丘陵に育まれた自然と歴史～
- ② 宿の賑わい～山陽道の駅、宿、舟運～
- ③ 石と信仰～古墳の石棺と中世の石造物群、播磨国風土記の伝承～
- ④ 仏と神と鬼と人～伝説、祭礼、社寺に伝わる文化財～
- ⑤ 水を治める～ため池・用水路と農村文化～
- ⑥ 近代化の風景～赤煉瓦、洋館、近代遺産～

策定後の成果（見込まれる効果）

① **地域団体との協働のまちづくり**
協働によるまちづくりの一環として、地域社会に貢献する活動などを行う市民団体に対して、活動経費を補助する制度が実施されている。歴史文化に直結する事業としては、歴史本の出版、伝統文化体験、鉄道車両の保存・維持など多岐にわたり、市民主体での魅力あるまちづくりが積極的に行われている。



② **人材・継承者の育成**
伝統文化親子教室事業の活用や民俗芸能団体同士の連携強化など、様々な取組が実施されている。歴史文化遺産の保存や地域の活性化が実現すると同時に、市民による取組を継続していくための新たな人材の育成が期待できる。



③ **歴史文化を育むまちづくりの循環**
歴史文化資源の価値を顕在化し、まちづくり活動への支援を充実することで、地域の個性や魅力が向上する。このことで市民の地域に対する愛着がより一層育まれ、さらなる歴史文化資源の把握と、保存・活用へつながる循環が生み出される。

